

謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、皆さまのご繁栄とご多幸を心よりお祈り申し上げます。さて、去年の十月四日には、三年越しの晋山・結制、庫裡の落慶法要に、ご本寺名川の法光寺様をはじめ、西堂の階上町応物寺様 師匠の八

戸市新井田の對泉院様、教区・近隣の寺院様方総勢四十六人においで頂き、無事円成させて頂きまして誠にありがとうございました。新位牌堂、新水屋物置(倉庫)、庭園の完成も見事な事が出来ました。昨今の経済事情も顧みずに寄付金をお

お願いし、ご協力を頂きました事に對しまして、深く感謝を申し上げます。晋山開堂の須弥壇上での問答で、「これからどの様なお寺にして行きたいのか?」の問に對して、「門戸開放、往来自由、そして、バリアフリー!」と答えました。「誰

飯原 啓誠
拓郎
絹子
合掌
平成二十四年 正月



十一面觀世音菩薩

かきみす

笑門來福

オン ロケイジンバラ キリク ソワカ

発行所 普門山 林泉寺
三戸町斗内字 寺牛25
〇一七九
二五二八五〇
啓誠

正月号

入りやすい、親しみのあるお寺にしたい」という事で、更に、息子の法戦式での祝詞は「林間に湧く泉、又一つ増え、普く大道の門を開き、檀徒の枯渴を潤す。是を言うや、至祝万歳」といふ事だ、何と、泉寺に新たに後継ぎさんが、きつと檀家さんの期待に答えられるはずだ、何と、めでたい事か」という事です。気持ちも新たに、今年からが本場の住職としての、スタートだと思っております。

もつーの晋山問答

— 如何なるか仏道? —

昨今の不安定な社会情勢からか、毎日のように犯罪やいじめの報道がなされるなど、人びとのこころの問題がとり立てられていきます。私教には、「諸悪莫作 善奉行 自浄其意」ということばがあります。「悪いことをせず、良いことをし、自らの心を清めよ。これが諸仏のおしえである」といった意味で、当たり前のことを言っているようですが、実践にはなかなか行っていないことは、果たして正しいことでしょうか? 他人の目を無いたくして、楽をしようとしていませんか? 良いことか? 悪いことか? 常に自覚を持ち、それが仏の行いに沿っていくよう、日々励むこと

が仏道であり、お釈迦さまのみ教えなのです。といった様な答えを出し、最後に「誰もが仏なり、己の心の奥に在る、ほとけをほどこけ!」と説破しました。禅宗では「直心是道場」ということばもよくいわれます。「まっすぐな心があれば、そこが修行道場である」といった意味です。年頭にあたり気持ちを新たに、正しい道を歩んでいきたいものです。



三法印 (三の真理)

「三法印」さんぼういん。いろいろで、お経・偈文などの意味を少しずつ解説してききました。前回は「釈迦さまがお悟りを開くに至った「雪山偈」という因縁のお話をしました。今回興味深いのは、この三法印の和訳が

「三法印」

諸行無常 (しゆぎやうむじやう)

是生滅法 (ぜしやうめつぽう)

生滅々已 (しやうめつじ)

寂滅為樂 (じやくめつゐらく)

諸行は無常である
是がこの生滅する世界の法である
生滅へのつらさを滅して
寂滅をもって樂と為す

「いろいろは歌」だといわれていた事ですが、面白い事になりそうです。いろはにはほへとちりぬるをわかよたれそ、ななむねの... という、ひらがなを重ね字なく並べて読みこんだ四十七字の歌を「いろは歌」といいます。昔は手習いの手本やカルタ遊びの読み札として用いられました。しかし、戦後の国語教育では、「あやゑ」という字が使われなくなり、教えることもありませぬから、この歌を知る若者も少なくなり、まして意味を知る人も減る一方です。けれども「涅槃経」の四句を和訳した仏教的人生訓なのです。弘法大師の作とも伝えられますが、はっきりしたことはわかりません。その真偽はともかく、すこ意味が含まれています。いろはにはほへとちりぬるをわかよたれそ、ななむねの... あさきゆめみし、ふさぎもせず

このままでは意味がわかりにくいので、漢字をあてはめてみると、色は匂へど散りぬるを... 諸行無常... 我が世誰ぞ... 常ならむ... 是生滅法... 有為の奥山 今日越えて... 浅き夢見じ 酔いもせずした、寂滅為樂... となりませぬ。色は匂えど散りぬるを、花は爛漫と咲き散らしてしまふように、人も寿命がくれば必ず死んでいくすべての存在はうつりかわる。我が世と青春と肉体を謳歌しているのも、月日のたつのは実に早いものです。我が世誰ぞ常ならむ、この世に存在するものは生滅する法(真理)です。釈尊は一切のものは無常である。諸法は無我である。故にすべて

の存在しているものには永遠不滅なるものなどは内在しないと宣言されたので、有為の奥山今日越えて「生滅へのとらわれを超えて」とは、因縁の道理を知る、現実の道理に目覚めることです。有為とは為す有りです。人間のとははからいとは「人生とはどうしたうて有為なんだ」というのでしようが、無為というのには、無の無いということ。そのことに一生懸命には勤めるが、こうやったらこうなるだろうというアテを作らないこと。アテを作るとみんな、必ず手前みそになるんです。浅き夢見じ酔いもせず、寂滅をもって樂と為す、有為の奥山を超えて見たならば、浅い夢のようなもの、酔ったぱらっていった「寂滅」とはやすらぎと

何かをめぐって無我夢中に突っ走って行くと、めがけたものに到達したのか、まだなのか、それとも通り過ぎたのか、良く分からなくなる、私だけでしょうか。晋山・結制、庫裡落慶法要もいつの間にか終わり、なんか力が抜けたような気がします。でも、これから... 小坊



編集後記



「さあ、これからほじめるぞ！」少し緊張



「私に代わって大衆を説破してみなさい」



いよいよ法戦式 首座 弁事、大衆入堂

首座法戦式



終了のお礼 「ありがとうございました！」



問答開始

首座 拓郎上座

「説破を拵せよ、看ん！」



十巻ずつになっている 今回の落慶式に併せて 予算に入れた「大般若波

庫裡落慶大般若



檀家総供養



だいたい一人で二十巻ずつ転読する。



新品なので「魂入れ」をする

羅蜜多經六百巻」です。

南部住建さんは、「庫裡建設」橋本静一さん(みちのく庭園)は「環境整備(庭)」、椀木レツさんは「柱掛」、上戸石材店さんは「寺号標」写真はありませんが、九月二十九日に亡くなった田沼義三さんは「撞幡一對」ほんとうに有り難うございました。大開静



感謝状授与



晋山・結制、庫裡落慶法要

大導師・西堂老師ご到着



曹洞宗 普門山 林泉寺



五盤三拝

西堂 応物寺様



五盤三拝

ご本寺 法光寺様



入寺式

首座 拓郎上座

入寺式及び本則行茶

平成二十四年十月三日 午後三時、入寺式、本則行茶、ご為に、ご

本寺並びに西堂老師が五盤三拝というご挨拶のお拝をなされました。入寺式は僧堂(座禅堂)で行う為に、出家者しか入れず一般の方は入れません。本則行茶は、四日の法戦式に先立ち住持に代わって大衆の法問に答える座を首座に与える儀式、そのあとお茶をふるまう習わしになってい



首座を勧請する為の拝

平成二十四年十月四日朝八時、護持会長小嶋敏式家(安下処)に於いて出発のお勤めをしました。



晋山式及び開堂



住職辞令授与

ご本寺 法光寺様



山門頭での香語



小雨の中、錦幡と共に上山の行列。



師匠から祝辞

八戸市 對泉院様



若和尚との問答



須弥檀上での香語



役員・総代からのお祝いのお装束を頂戴